

6月28日（水） 今年も「えりも駒踊り」の練習が始まっています。

宿泊研修後の6月21日より、本校1年生が「えりも駒踊り」の練習を始めています。「えりも駒踊り」は、本校の1年生が地域の指導者の協力を得て、代々伝承してきたものです。

以下は、10年前（平成19年）の「海と山の幸フェスティバル」において、1年生代表が駒踊りの発表前に話した紹介の言葉です。

皆さん、こんにちは。えりも高校一学年です。

発表に先立ちまして、えりも町の郷土芸能である「えりも駒踊り」について、ご説明します。「えりも駒踊り」は、最初は「南部駒踊り」といわれ、今から六十年以上も前に、岩手県南部藩ゆかりの移住者によって、ふるさとをなつかしむ踊りとして町内に広められたものです。

もともと南部駒踊りは、春に放牧された若駒を、秋に取り押さえる様子を、踊りに表したものとわれています。えりもの駒踊りは、こうした南部地方の駒踊りを基本にしなが、馬と共に生き、馬に支えられてきた生活の中から、創意工夫されてできたものです。牧場で戯れる馬の様子をとらえた、独特の踊りです。最初の頃は、豊漁を祈願する踊りとして、毎年九月十五日の、住吉神社の例大祭に、町内をねり歩き、町民に親しまれてきました。

一時、後継者不足のために、消滅の危機に立たされたこともありましたが、有志によって受け継がれ、駒踊り保存会が発足してからは、伝承活動も活発に行われるようになり、いろいろなイベントで披露されています。

踊りは、流し馬・合い馬・遊び馬の三つからなり、踊り手の顔化粧が、大きな特徴となっています。

私たちは、郷土の伝統芸能に触れるために「えりも駒踊り」を今日まで一生懸命練習してきました。

それでは、笛・太鼓・じゃ鐘のはやしに会わせて、元気に草原を駆け回る、若駒たちの様子をとくにご覧ください。平成19年10月7日 第一学年代表

今年も、えりも駒踊り保存会勇駒会の吉田さん、田名部さんが特別講師として指導して下さっています。10月1日（日）の「海と山の幸フェステ

イバル」では、練習の成果が披露される予定です。

6月28日の練習の風景を掲載しましたのでご覧下さい。

